

## <マニュアル訂正連絡票>

# ASP システム移行手引書 V28 (ASP E90 系/V10 系からの移行)

[J2K0-5760-01]

2017年4月26日発行

修正箇所 (章節項): 第4章 非互換点「4.38 PC ファイルサーバ」

旧記事

新記事を追加してください。

新記事

### 4.38.4 NET USE コマンド

V28 以降の PC ファイルサーバでは、NET USE コマンドを使用する際、必ず「Windows のコンピュータ名」を指定する必要がある。指定方法は以下の通りである。

```
NET USE   ドライブラベル (x: や z: など)
          ¥¥PC ファイルサーバのコンピュータ名 (または IP アドレス) ¥共有名
          パスワード
          /USER:Windows のコンピュータ名¥ユーザ名
```

修正箇所 (章節項): 4.56 Systemwalker ListWORKS

旧記事

### 4.56 Systemwalker ListWORKS

Systemwalker ListWORKS の移行に際しては、以下の注意事項がある。  
詳細は、“ASP [Systemwalker ListWORKS 説明書](#)”を参照。

#### 1) 機能範囲

システム共通変数@TMSROOT の値により機能範囲が以下のように異なる。

@TLIBEX の場合:

全機能使用可能

@TLIBBS の場合:

以下の機能は使用できない。

- Web ゲートウェイ
- 高速化ライタ
- PDF ファイルの作成
- 電子メール送信

#### 2) 動作環境

旧システムから移行する場合は、サーバ動作環境定義、配信連携定義において定義を修正し、環境設定

コマンドを実行する。

3) ListGateway の pollingprint. watchtime (ポーリング印刷の監視時間間隔) の初期値(※)

※ 初期値とは, ListGateway.properties ファイルに記述されている pollingprint. watchtime の値。

- ・ V22 以前の初期値は, 10 (秒)
- ・ V23 以降の初期値は, 60 (秒)

過去バージョンから移行する場合, V23 の ListGateway.properties ファイルをそのまま使用すると, ポーリング印刷の監視時間間隔が 60 秒になる。

**ポーリング印刷の監視時間間隔の初期値変更による影響**

ポーリング印刷時には, UXF ソケットを使用する。

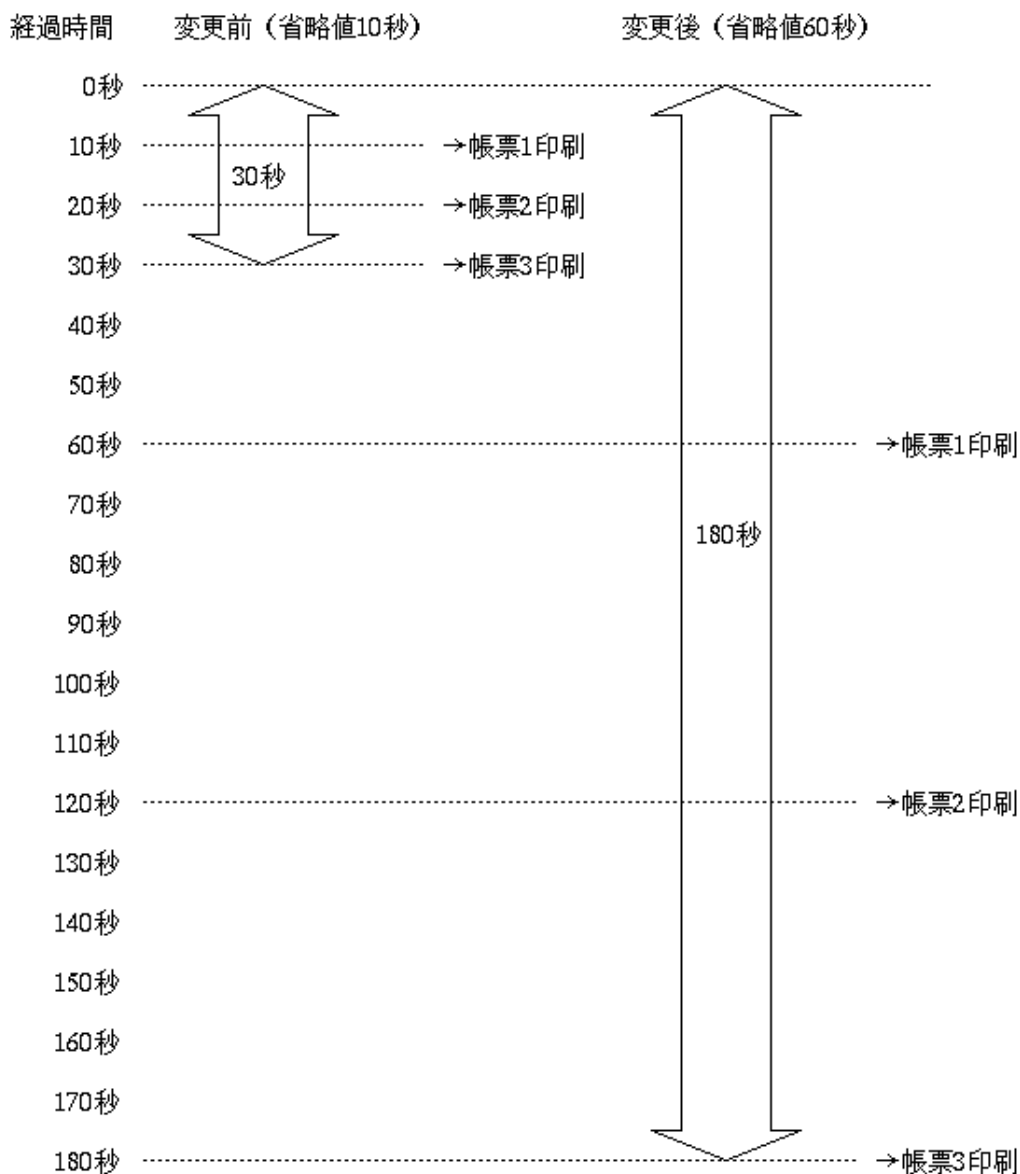
UXF ソケットは, 一度使用すると 60 秒間再利用できないため, 多端末でポーリング印刷を使用する場合は, 以下の考慮が必要である。

- ー ポーリング印刷の監視間隔時間を「60」以上に設定する (V23 の初期値は「60」)。
- ー ポーリング印刷の監視間隔時間を「60」未満に設定する場合は, UXF ソケット数を増やす。

UXF ソケットの見積りは, “ASP [ネットワーク機能解説書](#)” を参照。

ポーリング印刷の監視間隔時間を初期値 60 秒のまま動作させた場合の影響を以下に示す。

例) ポーリング印刷対象の帳票が 3 つの場合 (帳票 1, 帳票 2, 帳票 3)



新記事

4.56 Systemwalker ListWORKS

Systemwalker ListWORKS の移行に際しては, 以下の注意事項がある。

詳細は, “ASP [Systemwalker ListWORKS 説明書](#)” を参照。

1) 機能範囲

システム共通変数@TMSROOT の値により機能範囲が以下のように異なる。

**@TLIBEX の場合：**

全機能使用可能

**@TLIBBS の場合：**

以下の機能は使用できない。

- － Web ゲートウェイ
- － 高速化ライタ
- － PDF ファイルの作成
- － 電子メール送信

2) 動作環境

旧システムから移行する場合は、サーバ動作環境定義、配信連携定義において定義を修正し、環境設定コマンドを実行する。

3) ListGateway の pollingprint.watchtime (ポーリング印刷の監視時間間隔) の初期値(※)

※ 初期値とは、ListGateway.properties ファイルに記述されている pollingprint.watchtime の値。

- ・ V22 以前の初期値は、10 (秒)
- ・ V23 以降の初期値は、60 (秒)

過去バージョンから移行する場合、V23 の ListGateway.properties ファイルをそのまま使用すると、ポーリング印刷の監視時間間隔が 60 秒になる。

**ポーリング印刷の監視時間間隔の初期値変更による影響**

ポーリング印刷時には、UXF ソケットを使用する。

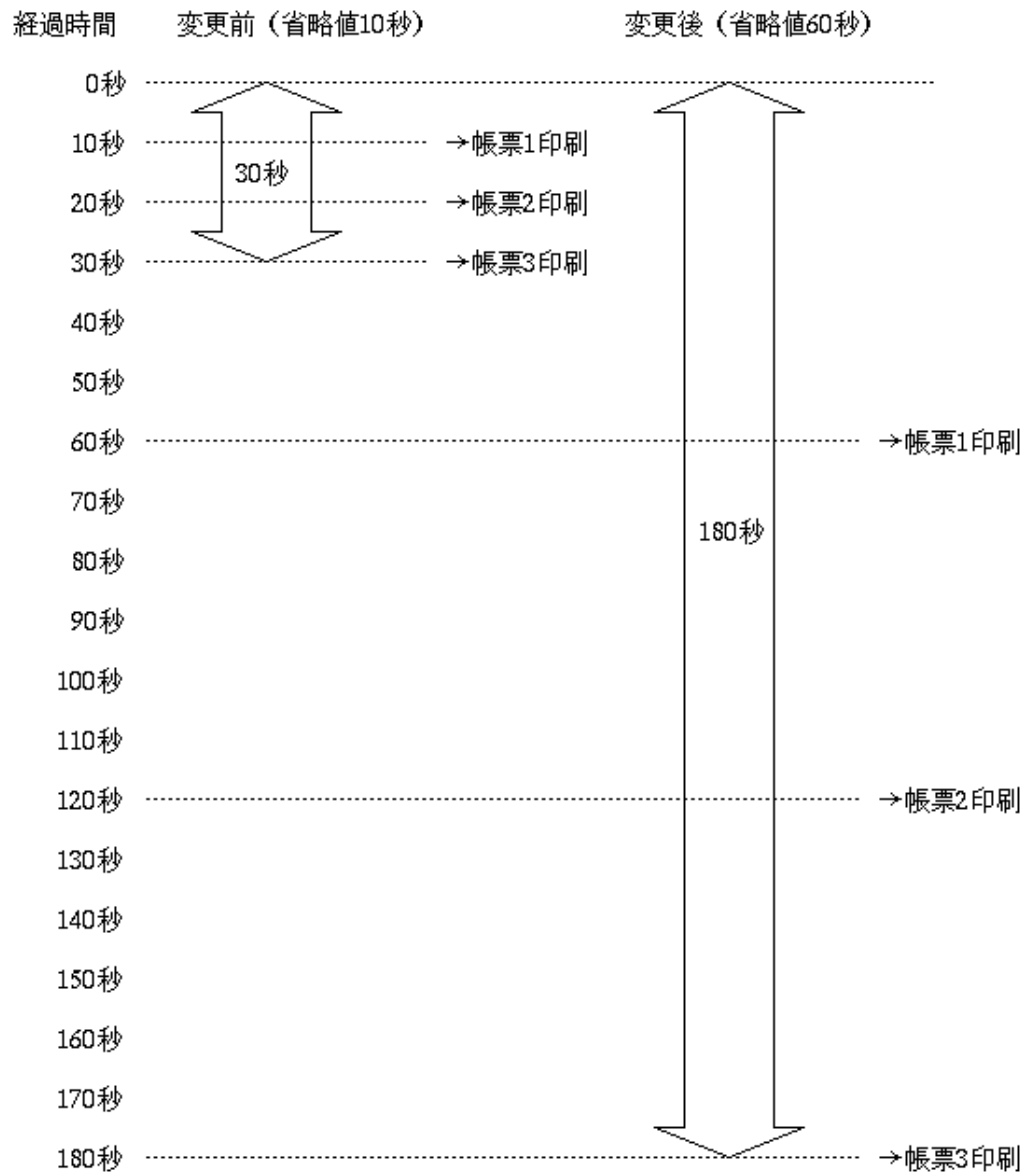
UXF ソケットは、一度使用すると 60 秒間再利用できないため、多端末でポーリング印刷を使用する場合は、以下の考慮が必要である。

- － ポーリング印刷の監視間隔時間を「60」以上に設定する (V23 の初期値は「60」)。
- － ポーリング印刷の監視間隔時間を「60」未満に設定する場合は、UXF ソケット数を増やす。

UXF ソケットの見積りは、“ASP [ネットワーク機能解説書](#)”を参照。

ポーリング印刷の監視間隔時間を初期値 60 秒のまま動作させた場合の影響を以下に示す。

例) ポーリング印刷対象の帳票が 3 つの場合 (帳票 1, 帳票 2, 帳票 3)



4) 電子メール (e-mail) による登録完了通知と電子帳票の送信のメールの発信者

- ・ V22 以前は, “XSYSMNGR + @ + ドメイン名”
- ・ V23 以降は, “\*FUJITSU + @ + ドメイン名”

2016年10月31日発行

旧記事

2.7.5 利用者定義文字の復元/設定

CHARM ユーティリティまたは EXPCHR コマンドで退避した利用者定義文字は, CHARM ユーティリティまたは IMPCHR コマンドで復元する.

- 1) CHARM ユーティリティ  
CHARM ユーティリティの「退避」で退避した利用者定義文字は, CHARM ユーティリティの「復元」の機能を使って復元する.  
CHARM ユーティリティの形式を以下に示す. CHARM ユーティリティの詳細は, “ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

CHARM

- 2) IMPCHR コマンド  
EXPCHR コマンドで退避した利用者定義文字は, IMPCHR コマンドで復元する.  
IMPCHR コマンドの形式を以下に示す. IMPCHR コマンドの詳細は, “ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

IMPCHR FILE - ファイル名 [ . { @LIBL  
@TEMP  
ライブラリ名 } ]

## 新記事

### 2.7.5 利用者定義文字の復元/設定

EXPCHR コマンドで退避した利用者定義文字は IMPCHR コマンドで復元する。以下に IMPCHR コマンドの形式を示す。IMPCHR コマンドの詳細は、“ASP システムコマンド集”を参照。

IMPCHR FILE - ファイル名 [ . { @LIBL  
@TEMP  
ライブラリ名 } ]

LAN 直結プリンタで利用者定義文字を印刷する場合、復元した利用者定義文字を、EDTJCLIB コマンドまたは ADDCHR コマンドで文字パターン辞書に登録する。EDTJCLIB コマンドや ADDCHR コマンドの詳細は、“ASP CHARM 説明書(日本語文字管理ユーティリティ)”を参照。

#### 1) EDTJCLIB コマンド

EDTJCLIB

#### 2) ADDCHR コマンド (登録する JEF コードをオペランドで指定する場合)

ADDCHR JEF - 'JEF コード' [ , DOT - { @ALL  
@D16  
@D24  
@D30  
@D32  
@D40 } ] [ , REP - { @YES  
@NO } ]

2016年6月28日発行

修正箇所 (章節項) : 表 2.4.1 対象となる利用者環境 表 2.1 利用者環境項目一覧(機種移行)

## 旧記事

表 2.1 利用者環境項目一覧(機種移行)

利用者環境	退避に使用するコマンド
プロフィール (システムが提供しているプロフィールおよび利用者が設定したプロフィール)	SAVPED コマンドで退避する。
ユーザ ID ファイル	E96 以降 : SAVUIDF コマンドで退避する。
システム共通変数 (値を変更後、IPL で元の値に戻る変数は対象としない)	SAVCMV コマンドで退避する。

EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
利用者定義文字	CHARM コマンドまたは EXPCHR コマンドで退避する.
PLCA	E95 以降 : EXPPLCA コマンドで退避する.
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)	SAVTMBR コマンドで退避する (V14 以降) .
接続管理情報	SIP メニューの「接続管理情報の退避」で行う. またはソース形式に変換し, SAVMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「 <a href="#">ASP Systemwalker ListWORKS 説明書</a> 」を参照して退避する.
Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産	SAVTMBR コマンドで退避する.
RDB 辞書	同じ磁気ディスク装置を使う場合, DLTRDD コマンドで RDB 辞書を削除する.
バックアウトファイル	DSPBOF コマンドの表示内容を控えておく.

## 新 記 事

表 2.1 利用者環境項目一覧(機種移行)

利用者環境	退避に使用するコマンド
プロフィール (システムが提供しているプロフィールおよび利用者が設定したプロフィール)	SAVPED コマンドで退避する.
ユーザ ID ファイル	E96 以降 : SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数 (値を変更後, IPL で元の値に戻る変数は対象としない)	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
利用者定義文字	CHARM コマンドまたは EXPCHR コマンドで退避する.
PLCA	E95 以降 : EXPPLCA コマンドで退避する.
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)	SAVTMBR コマンドで退避する (V14 以降) .
接続管理情報	SIP メニューの「接続管理情報の退避」で行う. またはソース形式に変換し, SAVMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「 <a href="#">ASP Systemwalker ListWORKS 説明書</a> 」を参照して退避する.
Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産	SAVTMBR コマンドで退避する.
RDB 辞書	同じ磁気ディスク装置を使う場合, DLTRDD

	コマンドで RDB 辞書を削除する.
バックアウトファイル	DSPBOF コマンドの表示内容を控えておく.
文字コード変換表ファイル (利用者が標準コード変換機能に追加した文字コード の対応関係が格納されたファイル)	SAVFILE コマンドで退避する.

修正箇所 (章節項) : 新しい項「2.4.19 文字コード変換表ファイルの退避」の追加

旧記事

新記事

#### 2.4.19 文字コード変換表ファイルの退避

標準コード変換機能に文字コードの対応関係を追加している場合、文字コード変換表ファイル(XCDCVTBL.XCRMLIB)を SAVFILE コマンドで退避する。

例:

文字コード変換表ファイルを DVD-RAM ディスクに退避する。

```
SAVFILE FILE-XCDCVTBL.XCRMLIB,TODEV-DVD4470
```

修正箇所 (章節項) : 2.7 利用者環境の復元/設定

旧記事

## 2.7 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある.

- ・ SAVPED コマンドで退避したプロフィール環境
- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ 利用者定義文字
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ RDB 辞書
- ・ 管理ファイル
- ・ システム情報表
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)
- ・ SIP の接続管理情報
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境
- ・ Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産

- ・ バックアウトファイル

## 新記事

### 2.7 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある.

- ・ SAVPED コマンドで退避したプロフィール環境
- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ 利用者定義文字
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ RDB 辞書
- ・ 管理ファイル
- ・ システム情報表
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ UXF の環境定義ファイル(/etc/profile)
- ・ SIP の接続管理情報
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境
- ・ Webjet/Webjet AutoGUI オプションの利用者資産
- ・ バックアウトファイル
- ・ **文字コード変換表ファイル**

**修正箇所 (章節項):** 新しい項「2.7.21 文字コード変換表ファイルの復元」の追加

## 旧記事

## 新記事

#### 2.7.21 文字コード変換表ファイルの復元

SAVFILE コマンドで退避された文字コード変換表ファイル (XCDCVTBL, XCRMLIB) を RSTFILE コマンドで XCRMLIB ライブラリに復元後, GENCDTBL コマンドで UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

例:

DVD-RAM ディスクから文字コード変換表ファイルを復元する.

```
RSTFILE FILE=XCDCVTBL.XCRMLIB,TOLIB=XCRMLIB,DEV=DVD4470
```

例:

UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

```
GENCDTBL
```



旧記事

表 3.1 利用者環境項目一覧(バージョンアップ移行)

利用者環境	退避方法
ユーザ ID ファイル	SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
接続装置情報	SIP 保守メニューの「接続管理情報の退避」で行う.
PLCA	EXPPLCA コマンドで退避する.
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「ASP Systemwalker ListWORKS 説明書」を参照して退避する.

新記事

表 3.1 利用者環境項目一覧(バージョンアップ移行)

利用者環境	退避方法
ユーザ ID ファイル	SAVUIDF コマンドで退避する.
システム共通変数	SAVCMV コマンドで退避する.
EMIE の運用環境	CTLEMIE コマンドで退避する.
接続装置情報	SIP 保守メニューの「接続管理情報の退避」で行う.
PLCA	EXPPLCA コマンドで退避する.
WWW サーバ運用環境	SAVTMBR, SAVLIB, SAVMBR コマンドで退避する.
インターネットメールサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
レプリケーションサービス運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
WWW サーバシステムモニタ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
PC ファイルサーバ運用環境	SAVTMBR コマンドで退避する.
Systemwalker ListWORKS の運用環境	「ASP Systemwalker ListWORKS 説明書」を参照して退避する.
文字コード変換表ファイル(利用者が標準コード変換機能に追加した文字コードの対応関係が格納されたファイル)	SAVFILE コマンドで退避する.

旧記事

### 3.2.13 文字コード変換表ファイルの退避

標準コード変換機能に文字コードの対応関係を追加している場合、文字コード変換表ファイル(XGDCVTBL.XCRMLIB)をSAVFILEコマンドで退避する。

例:

文字コード変換表ファイルをDVD-RAMディスクに退避する。

```
SAVFILE FILE=XGDCVTBL.XCRMLIB,TODEV=DVD4470
```

修正箇所(章節項): 3.4 利用者環境の復元/設定

## 3.4 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある。

- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ RDB 辞書
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ Webjet 運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境
- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ スプール運用環境
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境

## 3.4 利用者環境の復元/設定

利用者環境として復元, 設定すべき内容には, 以下のものがある。

- ・ SAVUIDF コマンドおよび SAVFILE コマンドで退避したユーザ ID ファイル
- ・ SAVCMV コマンドで退避したシステム共通変数
- ・ EMIE 運用環境
- ・ RDB 辞書
- ・ EXPPLCA コマンドおよび SAVMBR コマンドで退避した PLCA
- ・ 多階層ライブラリ運用環境
- ・ Webjet 運用環境
- ・ WWW サーバ運用環境
- ・ インターネットメールサーバ運用環境

- ・ レプリケーションサービス運用環境
- ・ WWW サーバシステムモニタ運用環境
- ・ PC ファイルサーバ運用環境
- ・ スプール運用環境
- ・ Systemwalker ListWORKS の運用環境
- ・ **文字コード変換表ファイル**

修正箇所 (章節項) : 新しい項「3.4.19 文字コード変換表ファイルの復元」の追加

旧記事

新記事

### 3.4.19 文字コード変換表ファイルの復元

SAVFILE コマンドで退避された文字コード変換表ファイル (XCDCVTBL, XCRMLIB) を RSTFILE コマンドで XCRMLIB ライブラリに復元後, GENCDTBL コマンドで UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

例:

DVD-RAM ディスクから文字コード変換表ファイルを復元する.

```
RSTFILE FILE=XCDCVTBL,XCRMLIB,TOLIB=XCRMLIB,DEV=DVD4470
```

例:

UXF の標準コード変換機能に文字コードの対応関係を反映する.

```
GENCDTBL
```

2016年4月28日発行

修正箇所 (章節項) : 第4章 非互換点 目次

旧記事

追加

新記事

## 第4章 非互換点

この章では, 旧システムから新システムに移行する場合の非互換点の概要と必要な処置について説明する.

### 【目次】

4.1 非互換一覧 ☆

4.2 ADJUSTTM コマンド

<<中略>>

4.106 レプリケーションサービス

4.107 ワークステーションログ

4.108 NSS の起動

修正箇所 (章節項) : 4.1 非互換一覧 表 4.3 非互換一覧表(続き)

旧記事

表 4.3 非互換一覧表(続き)

非互換項目	非互換がある移行元 E/V
証跡ログ機構	V25
ジョブ共通変数	~ V14 ~ V19 ~ V19
	@ECXBUFS @DBBUFF @DBINFO
ジョブの RSIZE (実記憶の大きさ)	~ E98
接続管理情報	~ E98
装置記述の定義モデル名	~ V18
装置情報操作機能	~ V16
装置定義 (リモートフロッピー)	~ V13
多階層ルートライブラリ	~ E93
ディスクの自動ベリファイ機能	~ V27
電源スケジュール情報の期限切れ	~ V23
内蔵 FPD 装置	全 E/V
光磁気ディスク装置	~ V16, ~V22
光磁気ディスクボリューム (保管形式) の復元順番	~ V10
日付入力	~ E94
非同期メッセージ通信	~ V26
ファクシミリメディアサービス/FAX-Link	~ V19
メールサービス関連	~ E93
メモリプールの制御方式	~ E98
ユーザ ID/グループ ID	~ V11
ユーザ情報ファイル	~ V13
リエントラントプログラム領域 (RPA)	~ E98
リソースコンバータ	~ V20
レプリケーションサービス	~ V16
ワークステーションログ	V25 ~
<b>NSS の起動</b>	<b>~ V16</b>

表の読み方は以下のとおり.

単一 E/V 記載 (Exx) : 記載した E/V から新システムへの移行時に非互換

複数 E/V 記載 (Exx ~ Exx) : 記載した E/V の旧システムから新システムへの移行時に非互換

全 E/V : すべての旧システムから新システムへの移行時

修正箇所 (章節項) : 4.108 NSS の起動

新規追加

1) 非互換点

V17 以降のシステムにおいて NSS を起動する場合、拡張多階層ライブラリ運用環境を使用する。

2) 処置

移行前システムにおいて、基本多階層ライブラリ運用環境で運用されていた場合、拡張多階層ライブラリ運用環境へ移行する。また、システム共通変数@TMSROOT の値を@TLIBEX に設定する必要がある。

拡張多階層ライブラリ運用環境への移行方法については、“3.4.6 多階層ライブラリ運用環境の設定”を参照されたい。

2014 年 12 月 19 日発行

修正箇所 (章節項): 2.4.12 WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避

旧記事

## 2.4.12 WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避

WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避について説明する。

### Web システム管理の環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web システム管理の環境定義ファイルを退避する。退避する必要があるファイルを以下に示す。

- /optx/wwn/sysmng/html/index.html
- /optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js
- /optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf

例:

Web システム管理の環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE=@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-INDEX, PATH='/optx/wwn/sysmng/html/index.html'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-SYSJS, PATH='/optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-POLICY, PATH='/optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

### Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルの退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web システムモニタの HTML ファイルを退避する。退避する必要があるファイルを以下に示す。

- /optx/wwn/net/main.html

例:

Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE=@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-MAIN, PATH='/optx/wwn/net/main.html'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

### Web メッセージモニタの環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web メッセージモニタの環境定義ファイルを退避する。退避する環境定義ファイルの格納場所/ファイル名は、Web メッセージモニタサーバの起動方法により異なる。

### システムの IPL で起動している場合

/optx/wwr/wmm/etc/wwrwmm.conf

### 運用管理 WWW サーバから起動している場合

/etc/wwr/wwrwmm.conf

### STRWMM コマンドで起動している場合

任意 (STRWMM コマンドの PATH パラメタで指定しているパス名)

例:

/etc/wwr に格納された Web メッセージモニタの環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
CHGCDIR PATH-'/etc/wwr'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-WMMCONF, PATH-'wwrwmm.conf'
```

SETDSPC, CHGCDIR, SAVTMBR コマンドの詳細は, “ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

## 新 記 事

### 2.4.12 WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避

WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避について説明する.

#### Web システム管理の環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して, Web システム管理の環境定義ファイルを退避する. 退避する必要があるファイルを以下に示す.

- ・ /optx/wwn/sysmng/html/index.html
- ・ /optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js
- ・ /optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf

例:

Web システム管理の環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-INDEX, PATH-'/optx/wwn/sysmng/html/index.html'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-SYSJS, PATH-'/optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-POLICY, PATH-'/optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は, “ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

#### Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルの退避

SAVTMBR コマンドを使用して, Web システムモニタの HTML ファイルを退避する. 退避する必要があるファイルを以下に示す.

- ・ /optx/wwn/net/main.html

例:

Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-MAIN, PATH-'/optx/wwn/net/main.html'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

### Web メッセージモニタの環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web メッセージモニタの環境定義ファイルを退避する。退避する環境定義ファイルの格納場所／ファイル名は、Web メッセージモニタサーバの起動方法により異なる。

#### システムの IPL で起動している場合

/optx/wwr/wmm/etc/wwrwmm.conf

#### 運用管理 WWW サーバから起動している場合

/etc/wwr/wwrwmm.conf

#### STRWMM コマンドで起動している場合

任意 (STRWMM コマンドの PATH パラメタで指定しているパス名)

例:

/etc/wwr に格納された Web メッセージモニタの環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE=@EBCDICS
CHGCDIR PATH='/etc/wwr'
SAVTMBR TODEV=MT0,SAVNAME=WMMCONF,PATH='wwrwmm.conf'
```

SETDSPC,CHGCDIR,SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

### Web アカウント認証の環境設定の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web アカウント認証の環境設定を退避する。退避する必要があるファイルを以下に示す。

- /optx/wwa/conf/wwa-env.conf
- /optx/wwa/conf/wwa-system.conf

例:

Web アカウント認証の環境設定を MT0 に退避する場合

```
SETDSPC @EBCDICS
SAVTMBR
TODEV=MT0,SAVNAME=WWAENV,PATH='/optx/wwa/conf/wwa-env.conf'
SAVTMBR
TODEV=MT0,SAVNAME=WWASYS,PATH='/optx/wwa/conf/wwa-system.conf'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web サインオンの環境設定の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web サインオンの環境設定を退避する。退避する必要があるファイルを以下に示す。

- /etc/pn/pnwebenv2

例:

Web サインオンの環境設定を MT0 に退避する場合

```
SETDSPC @EBCDICS
SAVTMBR TODEV=MT0,SAVNAME=PNENV,PATH='/etc/pn/pnwebenv2'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。



## 2.7.14 WWW サーバシステムモニタの運用環境の復元

WWW サーバシステムモニタの運用環境の復元について説明する。

### Web システム管理の環境定義の復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web システム管理の環境定義ファイルを復元する。復元する必要があるファイルを以下に示す。

- ・ /optx/wwn/sysmng/html/index.html
- ・ /optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js
- ・ /optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf

例:

Web システム管理の環境定義ファイルを MT0 から復元する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-INDEX, REPLACE-@MIXED
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-SYSJS, REPLACE-@MIXED
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-POLICY, REPLACE-@MIXED
```

SETDSPC, RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルの復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web システムモニタの HTML ファイルを復元する。復元する必要があるファイルを以下に示す。

- ・ /optx/wwn/net/main.html

例:

Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルを MT0 から復元する場合

```
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-MAIN, REPLACE-@MIXED
```

RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web メッセージモニタの環境定義の復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web メッセージモニタの環境定義ファイルを復元する。

例:

Web メッセージモニタの環境定義ファイル wwwmm.conf を MT0 から/etc/wwr へ復元する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-WMMCONF, TOPATH-'/etc/wwr'
```

SETDSPC,RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。



## 2.7.14 WWW サーバシステムモニタの運用環境の復元

WWW サーバシステムモニタの運用環境の復元について説明する。

### Web システム管理の環境定義の復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web システム管理の環境定義ファイルを復元する。復元する必要があるファイルを以下に示す。

- ・ /optx/wwn/sysmng/html/index.html
- ・ /optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js
- ・ /optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf

例:

Web システム管理の環境定義ファイルを MT0 から復元する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-INDEX, REPLACE-@MIXED
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-SYSJS, REPLACE-@MIXED
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-POLICY, REPLACE-@MIXED
```

SETDSPC, RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルの復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web システムモニタの HTML ファイルを復元する。復元する必要があるファイルを以下に示す。

- ・ /optx/wwn/net/main.html

例:

Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルを MT0 から復元する場合

```
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-MAIN, REPLACE-@MIXED
```

RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web メッセージモニタの環境定義の復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web メッセージモニタの環境定義ファイルを復元する。

例:

Web メッセージモニタの環境定義ファイル wwrwmm.conf を MT0 から/etc/wwr へ復元する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
RSTTMBR DEV-MT0, SAVNAME-WMMCONF, TOPATH-'/etc/wwr'
```

SETDSPC,RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web アカウント認証の環境設定の復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web アカウント認証の環境設定を復元する。復元する必要があるファイルを以下に示す。

- /optx/www/conf/www-env.conf
- /optx/www/conf/www-system.conf

例:

Web アカウント認証の環境設定を MT0 から復元する場合

```
SETDSPC @EBCDICS
RSTTMBR DEV-MT0,SAVNAME-WWAENV,REPLACE-@MIXED
RSTTMBR DEV-MT0,SAVNAME-WWASYS,REPLACE-@MIXED
```

SETDSPC, RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

### Web サインオンの環境設定の復元

RSTTMBR コマンドを使用して、Web サインオンの環境設定を復元する。復元する必要があるファイルを以下に示す。

- /etc/pn/pnwebenv2

例:

Web サインオンの環境設定を MT0 から復元する場合

```
SETDSPC @EBCDICS
RSTTMBR DEV-MT0,SAVNAME-PNENV,REPLACE-@MIXED
```

SETDSPC, RSTTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照されたい。

修正箇所 (章節項) : 3.2.10 WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避

旧記事

### 3.2.10 WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避

WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避について説明する。

#### Web システム管理の環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web システム管理の環境定義ファイルを退避する。退避する必要があるファイルを以下に示す。

- /optx/www/sysmng/html/index.html
- /optx/www/sysmng/html/systemmanager.js
- /optx/www/sysmng/etc/policy.conf

例:

Web システム管理の環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-INDEX, PATH-'/optx/www/sysmng/html/index.html'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-SYSJS, PATH-'/optx/www/sysmng/html/systemmanager.js'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-POLICY, PATH-'/optx/www/sysmng/etc/policy.conf'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照。

#### Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルの退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web システムモニタの HTML ファイルを退避する。退避する必要があるファイルを以下

に示す.

- ・ /optx/wwn/net/main.html

例:

Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE=@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-MAIN, PATH-'/optx/wwn/net/main.html'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は, “ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

### Web メッセージモニタの環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して, Web メッセージモニタの環境定義ファイルを退避する. 退避する環境定義ファイルの格納場所/ファイル名は, Web メッセージモニタサーバの起動方法により異なる.

#### システムの IPL で起動している場合

/optx/wwr/wmm/etc/wwrwmm.conf

#### 運用管理 WWW サーバから起動している場合

/etc/wwr/wwrwmm.conf

#### STRWMM コマンドで起動している場合

任意 (STRWMM コマンドの PATH パラメタで指定しているパス名)

例:

/etc/wwr に格納された Web メッセージモニタの環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE=@EBCDICS
CHGCDIR PATH-'/etc/wwr'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-WMMCONF, PATH-'/wwrwmm.conf'
```

SETDSPC, CHGCDIR, SAVTMBR コマンドの詳細は, “ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

## 新 記 事

### 3.2.10 WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避

WWW サーバシステムモニタの運用環境の退避について説明する.

#### Web システム管理の環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して, Web システム管理の環境定義ファイルを退避する. 退避する必要があるファイルを以下に示す.

- ・ /optx/wwn/sysmng/html/index.html
- ・ /optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js
- ・ /optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf

例:

Web システム管理の環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-INDEX, PATH-'/optx/wwn/sysmng/html/index.html'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-SYSJS, PATH-'/optx/wwn/sysmng/html/systemmanager.js'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-POLICY, PATH-'/optx/wwn/sysmng/etc/policy.conf'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

### Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルの退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web システムモニタの HTML ファイルを退避する。退避する必要のあるファイルを以下に示す。

- /optx/wwn/net/main.html

例:

Web システムモニタのクライアント用 HTML ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-MAIN, PATH-'/optx/wwn/net/main.html'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

### Web メッセージモニタの環境定義の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web メッセージモニタの環境定義ファイルを退避する。退避する環境定義ファイルの格納場所／ファイル名は、Web メッセージモニタサーバの起動方法により異なる。

#### システムの IPL で起動している場合

/optx/wwr/wmm/etc/wwrwmm.conf

#### 運用管理 WWW サーバから起動している場合

/etc/wwr/wwrwmm.conf

#### STRWMM コマンドで起動している場合

任意 (STRWMM コマンドの PATH パラメタで指定しているパス名)

例:

/etc/wwr に格納された Web メッセージモニタの環境定義ファイルを MT0 に退避する場合

```
SETDSPC CODE-@EBCDICS
CHGCDIR PATH-'/etc/wwr'
SAVTMBR TODEV-MT0, SAVNAME-WMMCONF, PATH-'/wwrwmm.conf'
```

SETDSPC, CHGCDIR, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP [システムコマンド集](#)”を参照.

### Web アカウント認証の環境設定の退避

SAVTMBR コマンドを使用して、Web アカウント認証の環境設定を退避する。退避する必要のあるファイルを以下に示す。

- /optx/wwa/conf/wwa-env.conf
- /optx/wwa/conf/wwa-system.conf

例:

Web アカウント認証の環境設定を MT0 に退避する場合

```
SETDSPC @EBCDICS
SAVTMBR
```

```
TODEV-MT0,SAVNAME-WWAENV,PATH-'/optx/www/conf/www-env.conf'
SAVTMBR
TODEV-MT0,SAVNAME-WWASYS,PATH-'/optx/www/conf/www-system.conf'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP システムコマンド集”を参照されたい。

**Web サインオンの環境設定の退避**

SAVTMBR コマンドを使用して、Web サインオンの環境設定を退避する。退避する必要のあるファイルを以下に示す。

- ・ /etc/pn/pnwebenv2

例:

Web サインオンの環境設定を MT0 に退避する場合

```
SETDSPC @EBCDICS
SAVTMBR TODEV-MT0,SAVNAME-PNENV,PATH-'/etc/pn/pnwebenv2'
```

SETDSPC, SAVTMBR コマンドの詳細は、“ASP システムコマンド集”を参照されたい。

2013 年 8 月 22 日発行

修正箇所 (章節項) : 4.66 WWW サーバ

**旧 記事**

3) WWW サーバ/EX 環境定義ファイル

V16 より、以下の命令について、命令省略時の値が変更となった。

命令名	命令省略時の値	
	~V15	V16~
MaxClients	256	1024
ServerRoot	/optx/ht/ex	/var/httpd
TypesConfig	etc/mime.types	conf/mime.types
ServletProperties	etc/servlet.properties	conf/servlet.properties

移行前のシステムで、上記命令を省略している場合には、移行後に正しい値を指定するように修正が必要である。

**新 記事**

3) WWW サーバ/EX 環境定義ファイル

・V16 より以下の命令について、命令省略時の値が変更となった。

命令名	命令省略時の値	
	~V15	V16~
MaxClients	256	1024
ServerRoot	/optx/ht/ex	/var/httpd
TypesConfig	etc/mime.types	conf/mime.types
ServletProperties	etc/servlet.properties	conf/servlet.properties

移行前のシステムで、上記命令を省略している場合には、移行後に正しい値を指定するように修正が必要である。

・V27 より Container23StopTimer 命令の動作が変更となった。

～ V26	V27 ～
Container23StopTimer 命令で、指定された待ち合わせ時間内にサーブレット・コンテナの停止が完了しない場合、サーブレット・コンテナを強制終了させる。	Container23StopTimer 命令で、指定された待ち合わせ時間内にサーブレット・コンテナの停止が完了しない場合、サーブレット・コンテナのコアダンプを出力して強制終了させる。

---

以上